

第35回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時：平成22年5月18日（火）13時～15時10分
2. 場所：公益財団法人自動車リサイクル促進センター 第1・第2会議室
3. 出席者：永田委員長、鬼沢委員、小島委員、酒井委員、辰巳委員、
細田委員、米澤委員 以上7名出席
その他 公益財団法人自動車リサイクル促進センター事務局（議案説明者を含む）、経済産業省・環境省担当官が出席
4. 議題：①情報システムのあり方の検討について
5. 議事録

議題①情報システムのあり方の検討について、事務局から資料3を使用して説明。委員からは次の意見があり、本議題は、平成22年6月15日開催の第36回資金管理業務諮問委員会において再度審議することとなった。

<意見> (注) ○は委員、●は事務局

- 今回計画している情報システムの改善策は、将来発生する可能性がある業務拡張にも対応できるものなのか。
- 今回の改善策は、現在の業務を問題なく遂行するためのものであり、将来発生する可能性がある業務拡張には対応するものではない。
- 現在の機能を満たす必要最低限の改善策である。
- 性能対策を実施するとその後10年は性能維持できるとのことであるが、実施から5年程経過したところで情報システムの性能を確認することが必要。
- 今回の性能対策実施から10年経過した後は、また同様な性能悪化の問題が生じるのか。
- 性能対策実施直後と比べての性能悪化は起こり得るものの、将来においては現在よりも低コストで効果的な技術が開発されていることも考えられるので、今後の技術進歩の注視とともに、定期的に新技術の調査や性能検証を実施していきたい。
- 性能対策として実施を予定しているのは資料3別紙1の8頁「データの圧縮」及び9頁「データの分散」とのことであるが、10頁「システム構造の変更」や11頁「データの削除」は行わないのか。
- 「システム構造の変更」は、情報システム全体を改修することに等しく、システム障害の発生リスクの観点から実施できない。また、「データの削除」は、システム構造が複雑であるために増加したデータの削除処理に時間を要することから、実施できない。
- 「システム構造の変更」は、対策実施期間・費用の観点からも実施できないのではないか。
- データの増加は、今回のハードウェアの入替や将来的なハードウェアの技術の進歩によって、それほど問題ではなくなってくるのではないか。
- そうであれば、性能対策としての「データの削除」は不要ではないか。

- 今回の情報システムの性能対策は、その費用に特定再資源化預託金等を充てるほど大規模なものなのか。
- ハードウェアとデータベースを全て入れ替えるものであるので大規模なものといえる。よって、第6回合同会議^(*)で示された費用負担の基本的考え方で示された「情報システムの大規模な改造」に該当し、本性能対策に要する費用は、特定再資源化預託金等を充てる対象となる。
- 今回の改善策の実施においては、性能対策費用とメンテナンス対応費用が混在するが、ハードウェア関連費用の全額が性能対策費用ではなくメンテナンス対応費用として区分されているが、性能対策のためのハードウェア関連費用もあるのではないか。
- 第6回合同会議^(*)で示された費用負担の基本的考え方に則って、性能対策費用とメンテナンス対応費用に区分した。この考え方において、ハードウェア関連費用はメンテナンス対応費用として整理されている。よって、今回の性能対策におけるハードウェア関連費用は、メンテナンス対応費用として整理し、特定再資源化預託金等充当の対象外とした。
- これは、改善策の実施において混在する性能対策費用とメンテナンス対応費用をわかりやすく区分・整理したものであり、メンテナンス対応費用は特定再資源化預託金等充当の対象外として区分すべきとする平成21年12月開催の第32回資金管理業務諮問委員会における議論を反映させたもの。

(*) 平成16年3月17日開催の第6回産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG及び中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会自動車リサイクル専門委員会の合同会議

- 性能対策費用への特定再資源化預託金等の充当については、各年度において資金管理業務諮問委員会で審議するという事か。
- 性能対策費用の総額は入札によって確定するが、性能対策の実施期間は3年程度を要する。よって、実施期間の各年度において、当該年度の特定再資源化預託金等の充当について審議していただく。
- 入札においては現行業者が有利ではないのか。
- 入札は公平・透明性の観点によるユーザーへの説明性を確保して行う。また、現行業者以外の業者も十分実施可能な内容としているため、応札者の競争条件は平等であり、参入の機会均等は担保されている。
- 資料3について、消費者が見てわかるようにするという観点から改めて整理した資料を次回の第36回資金管理業務諮問委員会（平成22年6月15日開催）に提示してほしい。
- 情報システムの性能対策の実施、性能対策の方法及び性能対策費用の資金管理法

人・情報管理センター負担部分への特定再資源化預託金等の充当については承認の方向であるが、本議題は、継続審議とし、改めて整理した資料にて次回資金管理業務諮問委員会において再度審議する。

- 本議題については、本日の資料をわかりやすく改めて整理したうえで、次回資金管理業務諮問委員会において再度審議に付す。

以上